



INDONESIA MISSION



発行：日本福音教会(JEC) インドネシアミッション
 〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町2-42 西宮福音教会内 ☎：0798-51-5100
 郵便口座：00970-3-313875 「インドネシアミッション」
 HP：https://indonesiamission.info/

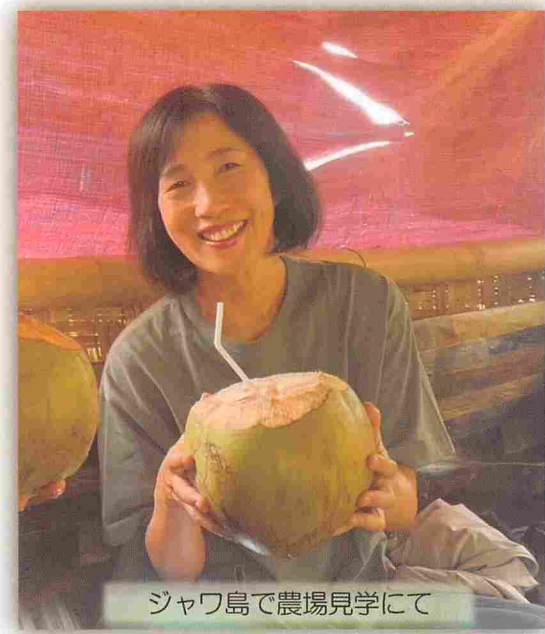


ダヤク族のダンスを披露してくれたグロリア寮のダンスチーム

インドネシア・西カリマンタン宣教のためにお祈りとご支援を感謝します。

今年8月にグロリア寮地域の農業プロジェクトのために、カリマンタン島とジャワ島を訪れました。行って見て実感したのは、「地域間の格差」「部族による違い」そして「人というのはすぐには変わらない」という事でした。土地が肥沃なジャワ島の効率的で良く管理された農業と、赤っぽい土を野焼きするカリマンタン奥地のやり方とではあまりにも差がありました。やっぱり「少しずつ、やれることから」カリマンタンの地と人に根差した方法で、進めていく事が大切だと思いました。グロリア寮I地域の農業振興プロジェクトは、舎監のヘルマヌスが経済的自立を目指して熱心に進めようとしています。一步一步、応援していきたいです。

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ



ジャワ島で農場見学にて

ドノが看護大学を卒業しました

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ

グロリア寮Ⅱ出身のドノが、ポンティアナックの看護大学(ムハマディア・ポンティアナック看護大学)を卒業しました。「看護師、そして村に保健所を」という夢を中学の時に持って、やっとここまで辿り着きました。出身地域の村々には診療所がなく、彼は多くの人が病で亡くなっていくのを見てきました。またある時、薬売りの人が村に薬を売りに来ましたが、薬が高すぎて買うことが出来ませんでした。そのような状況のため、村人は病気になると、まじないに頼るしかないのです。

ドノも父親を幼い時に亡くし、経済的には高校に行くのも困難でしたが、イエス様を信じて祈り続けました。インドネシアミッションから、また学費の一部をクリスチャンパートナーズから支援を受けることができ、スルカムのベテスタ看護学校を経てここまで来ることができました。以下、ドノからの挨拶です

「支援してくださった皆様。本当に、本当にありがとうございましたという以外言葉がありません。心から感謝します。でも、私の使命(ミッション)はまだ途中です。卒業証明書をもって、次は能力試験に合格して政府から登録証明書を取得しなければなりません。それが終わったら、サンガオ県の保険局担当者との保健所開設他の交渉です。どうぞ続けてお祈りください。そして私の健康のためにもお祈りください。今肺炎にかかっています。皆さんの祝福をお祈りします。ドノ」



卒業式でのドノ

シンカワン
Singkawang

ブンカヤン 約140km

約100km

約250km

プニティ・アナスタシス教会 フレンキー牧師のその後

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ

23年4月号に「フレンキー師の決断」という記事を書きました。それは、フレンキー牧師が近くの中学で宗教(キリスト教)を教えていることで、所属するGMII教団から牧師か教師かどちらか一つにするようにお達しが来たという問題でした。私も教会員も「牧師を続けて欲しい」と切に願いましたが、フレンキー師の考えは「自分が中学で宗教を教える事で多くの子ども達が福音を聞く事ができ、今まで多くの子ども達が教会に繋がっている。だから自分は続けて中学で宗教を教え、牧師は辞めて、新しく来られる先生と協力しながら一教会員としてプニティに仕えたい」というものでした。何か月間もフレンキー師は随分悩んでいました。私やプニティ教会員もどうなるかと重たい気持ちで心配してきました。

それで、その後どうなったかといいますと、フレンキー師がGMII教団に自分は伝道のために教師を続けたいと伝えたら、「牧師と両立させていいですよ」とあっさり返事が来たそうです。教団は他の牧師たちの経済的な現状を鑑み規則を変えたようでした。「え、あんなに悩んだのにそんなにあっさり」とも思いましたが、とにかく良かったです。ハレルヤ。そういうことで今は奥さんのスシーさんも小学校でキリスト教を教えるようになり、ますます



増築を検討している場所

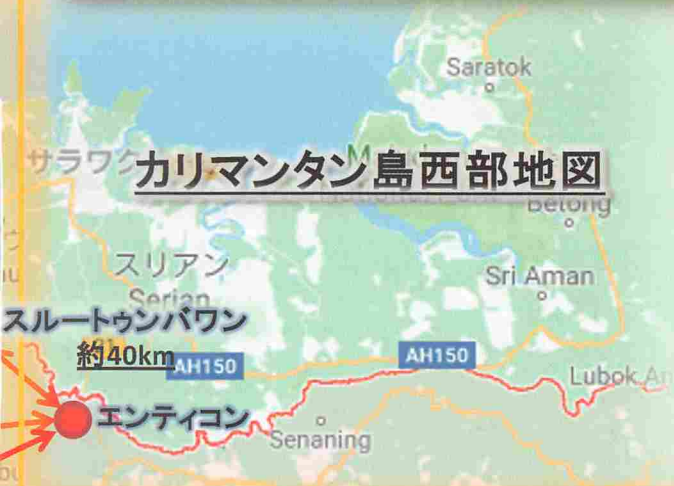
仏教、儒教が背景の華人インドネシア人の子ども達に福音が語られています。プニティ教会のCSは、礼拝で大人と一緒に賛美した後、分かれて講壇の後ろの狭い部屋で行っています。しかし最近子ども達はその部屋に入りきれないので、教会堂の後ろに部屋を増築する計画を立てています。続けて子ども達が救われていきますように。

スルートウンバワン地域 グンジュマ村ボルネオ幼稚園の働き

インドネシアミッション委員 東聖士



親戚の土地で、思いを合わせて祈りました



ネリ姉が運営しているボルネオ幼稚園は、スルートウンバワンからバイクで2時間に位置するグンジュマという村にあります。ネリ姉の故郷でもありません。ネリ姉は、ボルネオ幼稚園を市の認可を受けて正式に保育機関としての運営を目指しています。認可の手続きを開始したのですが、認可を受けるためには、園児の確保と幼稚園を所有していることが必須条件となります。園児は村にいますので、大きな問題なくクリア出来ますが、幼稚園を所有するというのに大きなハードルがあります。ボルネオ幼稚園は、現在、村の公民館を借りて運営しています。そのため幼稚園を所有して認可を受けるためには、新たに土地購入と幼稚園建設が必要になります。

幼稚園用の土地を探していましたが、ネリ姉宅の裏に親戚の土地があり、譲っていただけるという話が出てきています。広さはおおよそ15m×7m程度で、途中で斜面になっている場所。建物建設に最適とは言えませんが、簡易の木造であれば、十分に建てることのできる土地です。8月に訪問した時に、その土地をめぐみ先生、ネリ姉と共に見学し、祈りました。

真っ直ぐな眼で神様を見るネリ姉。彼女を用いて神様は御業をどのように見せて下さるのでしょうか。経済的な負担が大きな課題ですが、働きが前進して、この村の子どもたちに健全な信仰と運営が安定して展開されるよう、期待しています。

スルートウンバワン・グロリア寮II 保護者との懇談会 舎監 ヘルマヌス



半年前ほど遡りますが、より良い寮の運営を実現するには、親の声を聞く必要があると思い、6月に寮に来ている子ども達の親を招いて懇談会を持ちました。保護者たちは正直に様々な意見を出して下さいました。



懇談会後の食事の時

以下は、懇談会での声をまとめたものです。

- 1、親たちは、グロリア寮IIがスンクン地域にある事と、子どもたちが良く指導されている事をととても感謝してくれていました。そして日本の支援者にも心から感謝していました。
- 2、親たちは子ども達はこれからもグロリア寮IIに入るべきであると言っておられました。そして教育を受けられるように、子ども達をグロリア寮IIに全面的にお任せすると言って下さいました。
- 3、親たちは寮の規則をもっと厳しくしてほしいと願っておられました。真っ直ぐに成長することを願うとのことだと思います。
- 4、どうか続けて日本から子ども達の教育を支援してほしいと思っておられました。
- 5、保護者たちより、めぐみ先生と支援者の皆さんにありがとうございます、どうぞよろしくと伝えてほしいとの声がありました。

保護者たちと、寮での指導、またそのプロセスについて沢山意見を交わすことができ大変嬉しかったです。最後は皆で一緒に食事をして、和やかで大変良い時でした。定期的に声を聞いていこうと思います。

「インドネシアに行ってみませんか？」今年の春頃、KBIの学院長の高橋めぐみ先生に声をかけて頂きました。インドネシアミッションの働きで野菜を育てる話があり、KBIに来る前に農業を仕事にしていた自分はめぐみ先生、東先生、一緒に農業をしていた妻と共に今回初めてインドネシア西カリマンタンを訪れました。今回のミッショントリップでは様々な場所に行かせて頂きました。インドネシアミッションが支援する3つの学生寮、寮の卒業生の働きの場（幼稚園、コーヒーショップ）、ATI神学校、ポンティアナック事件の地・マンドール、殉教された安東栄子先生の石碑があるプニティ・アナスタシス教会、ポンティアナックで活動されておられる宣教師の現場、ジャワ島のボゴールにある先進農家の農場、ジャカルタ日本語教会などでした。

寮の働きは特に印象的でした。子ども達は寮生活を通して必然的に福音を聞き、クリスチャニティを身に付けていました。愛すること、赦すこと、人のために自らを犠牲にすること、誠実であることなどです。現金収入が少なく、教育の機会に恵まれていない山岳地帯の村にあって、そのような彼らの姿は輝いています。卒業した彼らが安定した仕事に就いたり、村に戻って村の発展のために、幼稚園をしたりコーヒー栽培にチャレンジしたりしています。その姿に憧れ、さらに山岳地帯の村から寮へと子どもたちが送られてくるそうです。そして寮でイエス様の福音を聞いていきます。結果的にですが、少しずつ、でも確実に山岳地帯の村々にまで、生活の改善とともに福音が届いています。



グロリア寮IIの子どもたちと(右端が山下夫妻)

山岳地帯の村で特に印象的だったのは、コーヒー畑の視察に訪れた山の上の村、シュノーレンでした。シュノーレンには二人乗りのバイクで向かいました。事前情報では半日で行って帰って来れるはずでしたが蓋をあけてみると、炎天下の中、何度もバイクを降りて坂を登らなければならず、一日がかりの想像を超えた過酷な道中になりました。



シュノーレンへの過酷な道のり

過酷になればなるほど元気になるめぐみ先生と東先生と違い、妻は村に着いた頃には軽度の熱中症になってしまいました。結局妻はめぐみ先生に付き添ってもらい寮の卒業生の家に一泊させてもらう事に。その家におられたのが、手足に障害を持つ女性でした。彼女は手足は不自由ですが、器用にアクセサリを作られていました。かつては自分の存在に自信を持てず写真に写ることさえ恥ずかしく思っていたという彼女ですが僕たちが出会ったのは、そのままの姿を神様が愛して

くれている事を知っている、温かい眼差しをした彼女でした。彼女との出会いは妻にとって何よりも励みになったようでした。インドネシアは全ての国民が宗教を持つことを義務付けられていますが、シュノーレンはほとんどの人がプロテスタントを選択しています。今回の視察でいくつかの村を訪れましたが、シュノーレンははっきりとわかるくらいに雰囲気の良い村でした。「こんな山奥にまで福音が届いている。」内側に感動を覚えました。



エンティコンで焼畑を見学

寮の働きは、いつも何かしらの困難や忍耐を抱えているようでした。グロリア寮Iは、学生は多いですが生活の必需品である水不足の問題を常に抱えています。グロリア寮IIは、舎監の先生も子ども達の雰囲気も素晴らしいのですが、建物の老朽化や交通の不便さの問題を抱えています。ベラカ寮は、水も豊富で建物も立派なのですが、校区や通信の事で学生が集まりにくいという問題を抱えています。それでも寮の働きは前進しています。環境が整ったから進むのではなく、問題を抱えながら前進し続けている様子でした。



ジャワ島での農場見学で質問する様子

野菜の栽培に関しては、グロリア寮IIの舎監であるヘルマヌスさんが始めておられます。彼は、現金収入が少ない山岳地帯の現状をなんとか改善したいという思いを持って奮闘されています。彼の働きのサポートに繋がればという狙いでジャワ島の野菜の産地を視察しましたが、分かったのはカリマンタン島は気候も土質も流通も市場も農地の整備も十分でないという事でした。しかし寮の働きをみて思われるのは、「主の働きは常に問題を抱えながらそれでも前進し続ける」という事でした。これからも祈りつつ、今後の進展を見守り続けたいと思われています。今回の訪問で色々な場所に行かせて頂きましたが、どこに行っても、そこに主を愛し、主に身をささげる人たちがいました。そして働きは今も広がり続けています。それは、宣教師の先生方が蒔き続けてこられた種が、大きく育っている様子だったように思います。そしてこれらの働きを支えているのは、日本からの祈りと支援でした。自分も妻と共に、この働きのために祈り続けていきたいと思われています。

－ 祈りのリクエスト －

ATI神学校

◎神学校の経済のために。経済的に厳しい状況を通っています。

3つの学生寮共通

◎子ども達の教育、霊性、生活指導が良くなされていくように。

◎指導する舎監達の守りと霊性のために。

エンティコン・グロリア寮Ⅰ

◎60名の子どもたちを指導するデルフィ夫妻のために。

◎井戸を掘削中です。水不足問題が解決するように。

スルートゥンバワン・グロリア寮Ⅱ

◎寮の改修工事を継続しています。寮の屋根(トタン)寮裏の排水路と女子台所との通路屋根を工事予定。

◎ヘルマヌが進める野菜プロジェクトのために。少しずつ前進するように。

ブンカヤン・ベラカ寮

◎計画している日本語クラスが実現するように。

ボルネオ幼稚園(幼児教育所)

◎幼稚園の土地・建物が与えられるように。政府の認可手続きが進むように。

◎責任者ネリのために(父親が振り込め詐欺に遭いました)

奨学生(中高生寮出身者)

◎看護大学を卒業したドノがバダットラマ村保健所開設を実現できるように。

◎大学を卒業したアニがエンティコンで就職できるように。

プニティ・アナスタシス教会

◎CSの子ども達の数が増えてきて場所が狭くなり、教会の後ろを増築予定です。主の助けがあるように。

沿岸部族への働き

◎タヨナ氏の4月イスラム新年の●族訪問のために。山中敬子姉、土門姉が同行する予定です。

◎●族のエズラさんの神学校の学びの為に。仕事が見つかるように。

その他

◎12月27日～1月4日の異文化体験ツアー(10名)の守りと祝福のために。参加者の中高生達は海外が初めてです。グロリア寮IIで年越しキャンプファイヤー、グロリア寮Iでクリスマス集会を予定。



工事を必要としている屋根と排水路

日本にあるインドネシア福音教会

インドネシアミッション委員
富浦 信幸

「宣教地が玄関先にやってきた」。ある宣教コースの学びの中に出てきたフレーズです。日本における在留外国人の数は急増しています。中でもイスラムやヒンズーといった、宣教困難地域から多くの人々が、宣教を自由に行える日本にやって来ています。この現状を見事に表現したのが、先ほどのフレーズです。インドネシアは世界最大のイスラム教徒が住む国です。そのインドネシアの人たちが集う福音教会は現在、東は茨城県、西は福岡県まで7つの教会と9つの伝道所があり、安海靖郎師が主任牧師として、インドネシアから派遣された9名の牧師が牧会を担っています。その内、ATI神学校卒業生の牧師は6名です。特徴は、どの教会も若者が多く活気に満ちあふれていることです。



大阪インドネシア福音教会のアユブ師夫妻と役員たち

彼らはまた、宣教に非常に熱心です。日本にいるインドネシア人はもちろんのこと、イスラム圏の国から来た人々にも積極的にリーチし、伝道しています。また、日本人に対する重荷もあり、インドネシア教会で日本人が救われはじめています。インドネシア福音教会全体の教勢報告によると、2021年度717人に対して、2022年度は829人と1年間で100人以上増えています。まさに「玄関先にやってきた宣教地」へのチャレンジが実を結んでいます。



大阪インドネシア福音教会の礼拝

「宣教ガイド2023」(第7回日本伝道会議)の中に、次のようなことが書かれてありました。「外国語教会でも、すでにその子弟の日本化が始まっている。だからこそ、日本の教会に期待したいことは、彼らとつながる心を持つことである。…宣教協力と交わり、超教派の活動から、多文化共生のモザイクチャーチの実現を期待したい。」宣教地が玄関先にやってきている今、私たち日本の教会も「扉」を閉めたままではいけません。外国語教会との協力は、新たな宣教の「扉」を開ける一歩になると信じます。



大阪インドネシア福音教会の日本語での聖書学び会